



## 2026年3月期 第3四半期決算短信【日本基準】(非連結)

2026年2月6日

上場会社名 株式会社ソケツツ

上場取引所 東

コード番号 3634 U R L <https://www.sockets.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 浦部 浩司

問合せ先責任者 (役職名) コーポレートマネジメント室 室長 (氏名) 茂田 輝子 T E L 03-5785-5518

配当支払開始予定日 -

決算補足説明資料作成の有無 : 有 「2026年3月期第3四半期決算説明資料」を同日付けで公表しております。

決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト・個人投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2026年3月期第3四半期の業績 (2025年4月1日～2025年12月31日)

#### (1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	796	10.2	29	-	31	-	38	-
2025年3月期第3四半期	722	△0.1	△102	-	△102	-	△92	-

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	15.86	-
2025年3月期第3四半期	△37.71	-

(注) 2025年3月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。また、2026年3月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、潜在株式は存在するものの希薄化効果を有していないため、記載しておりません。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第3四半期	854	571	63.9
2025年3月期	814	552	63.9

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 545百万円 2025年3月期 520百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年3月期	円 銭 -	円 銭 0.00	円 銭 -	円 銭 3.00	円 銭 3.00
2026年3月期	円 銭 -	円 銭 0.00	円 銭 -	円 銭 5.00	円 銭 5.00
2026年3月期(予想)				5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

詳細につきましては、2026年2月6日公表の「配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

### 3. 2026年3月期の業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,100	5.8	38	-	40	-	40	-	16.37

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

詳細につきましては、2026年2月6日公表の「2026年3月期通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期3Q	2,477,400株	2025年3月期	2,477,400株
② 期末自己株式数	2026年3月期3Q	34,585株	2025年3月期	24,685株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期3Q	2,450,994株	2025年3月期3Q	2,452,717株

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・当資料に記載している業績見通し等の将来に関する予測は、本資料の発表日現在において当社が入手可能な情報及び、合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想の利用については、添付資料P. 3「1. 経営成績等の概況（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
- ・決算説明補足資料はT D n e tで同日開示しています。
- ・当社は2026年2月6日（金）に機関投資家・証券アナリスト・個人投資家向け決算説明会を開催する予定です。この決算説明会で配布する資料については、開催後速やかに当社ウェブサイトで掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	6
(継続企業の前提に関する注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	6
(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	6
(セグメント情報等の注記) .....	6

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、不安定な国際情勢や為替相場、一時的なものではない物価やエネルギー・原材料の高まり、静かに地球規模で進む自然環境問題など、以前より不確実かつ不透明性は増している世界的な状況の中、新政権への期待や一段落した関税通商、引き続き好調なインバウンドもあり企業の設備投資も堅調の中、国内経済は小幅な上向きと捉えられる情勢でした。一方で個人所得や消費の着実な伸長は見られず、物価指数の上昇と合わせ、生活者目線で言えば上向きの実感が見えづらい景況感でもありました。

この複雑性や不確実性が増している情勢の中、目覚ましい進化を遂げる生成AIの存在が、今後より経済のみならず生活のあり方を大きく変える可能性はより増しております。

AIと人間の共存についてより深く広く問われるこれから時代において、当社独自開発の感性AIは、生成AIの進化と共に創しつつ、生成AIの設計思想とは少し離れた、人間の気持ちを理解するということに目的を特化した技術として当該期間も育成を続けております。

従来ではこの技術をエンターテイメント関連コンテンツのデータ化や推薦エンジンへ適用しご活用頂いておりますが、当該期間におきましては、よりコンテンツが生まれる、創られる領域への適用を目指し、開発および営業活動を行なっております。これらの活動は、今後日本がコンテンツ立国に進むうえで重要なまだ見ぬ日本中に埋まっている新たな才能の発掘に繋がることを目指し、既存の大手コンテンツ関連企業との検証も進んできております。

いずれにしても、当社が音楽、映画、アニメ、ドラマなどに内在する多様な世界観、ストーリー、キャラクター性などを通じてエンターテイメント分野にて磨いた感性AIをより進化させることが、当社の重要なミッションであり結果的に日本のこれからクリエイターにとって欠かせない存在の一つになることで社会への貢献を果たすことを目指しております。

当該期間においては、インターネットにおける音楽、映像サービスやインターネット広告サービスにおけるレコードや検索に活用するデータやシステムの提供事業が伸長いたしました。

これは音楽や映像サービスの中で、自分の“好き”や“推し”に出会い、自分の好みの深掘り、などにおいて利用されております。

当社の強みは、人間が持つ感性や感情を体系的、網羅的、詳細にデータ化を行った国内で有数のコンテンツデータベースとそこから派生した感性AIの存在です。

創業より25年培ったエンターテイメント分野でのデータ関連技術を活用し、当社は今後のIP※立国日本に貢献してまいります。

※楽曲、アニメ、ドラマ、小説、コミック、キャラクターなどのIP (Intellectual Property : 知的財産)

アラブ諸国の石油と同等に日本には素晴らしいコンテンツ、そしてそのコンテンツを生み出すクリエイターの存在が、この国の将来を支える土台の一つになります。その土台がより継続的に大きく国内外において発展していく企業活動を行います。

現在のサービスについては、ユーザーベースをもつパートナー企業への技術ライセンス提供として、KDDI株式会社、株式会社レコチョクを通じた株式会社NTTドコモ、LINEヤフー株式会社、楽天グループ株式会社、LINE MUSIC株式会社、HJホールディングス株式会社（サービス名「Hulu」）、株式会社フジテレビジョン（サービス名「FOD」）、株式会社集英社、株式会社世界文化ホールディングス、株式会社CEメディアハウス、株式会社ハースト婦人画報社、株式会社講談社などのサービスにて利用されております。

当第3四半期累計期間において独自のエンターテイメントデータサービスや感性広告サービスが伸長する一方で、積極的な先行投資を継続しつつも、生産性の向上やコストの最適化を推し進めました。

それら事業活動の結果として、当第3四半期累計期間の経営成績は、売上高796,522千円（前年同期比110.2%）、営業利益29,927千円（前年同期は102,427千円の営業損失）、経常利益31,854千円（前年同期は102,183千円の経常損失）、四半期純利益は、38,880千円（前年同期は92,492千円の四半期純損失）となりました。

### (2) 当四半期の財政状態の概況

当第3四半期会計期間末における総資産は、854,059千円（前事業年度末比39,330千円増）となりました。

流动資産につきましては765,444千円（同68,695千円増）となり、増減の主な要因としましては、現金及び預金の増加（同120,440千円増）、売掛金の減少（同52,474千円減）などがあつたことによります。

固定資産につきましては、88,614千円（同29,364千円減）となりました。これは主に、本社移転に伴い敷金及び保証金の回収により減少したことによるものであります。

負債は、282,731千円（同20,249千円増）となりました。増減の主な要因としましては、賞与支給による賞与引当金の減少（同22,618千円減）があつた一方で、未払金の増加（同10,555千円増）、退職給付引当金の増加（同9,837千円増）、その他流動負債の増加（同24,626千円増）などがあつたことによります。

以上の結果、純資産は、571,327千円（同19,081千円増）となり、自己資本比率は、前事業年度末の63.9%から変わらず63.9%となりました。

### (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期第3四半期（2025年4月1日～2025年12月31日）における売上高は、主力事業であるエンターテイメントデータサービスが当初の予想を上回り推移いたしました。

利益面におきましては、売上高の増加に加え、データライセンス事業の拡大と生産性の向上による双方の効果で粗利額が対前年で20%増加し、利益額、利益率とも伸長しております。また、従来通り先行投資を継続しつつ、コストコントロールも継続しております、2025年11月6日に公表いたしました業績予想を上回る見込みとなりました。

このような業績動向を鑑み、2026年3月期通期の業績予想を再度上方修正するものです。

詳細につきましては、2026年2月6日公表の「2026年3月期通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
通期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 錢
	1,100	5.8	38	—	40	—	40	—	16.37

(注) %表示は対前年増減比であります。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2025年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流动資産		
現金及び預金	464,965	585,406
売掛金	206,856	154,382
仕掛品	—	587
その他	24,927	25,069
流动資産合計	696,749	765,444
固定資産		
有形固定資産	0	31,980
無形固定資産		
ソフトウエア	0	3,010
その他	0	421
無形固定資産合計	0	3,432
投資その他の資産		
敷金及び保証金	105,689	40,229
その他	12,290	12,972
投資その他の資産合計	117,979	53,202
固定資産合計	117,979	88,614
<b>資産合計</b>	<b>814,728</b>	<b>854,059</b>
<b>負債の部</b>		
流动負債		
買掛金	37,458	36,944
未払金	20,007	30,563
未払法人税等	4,770	3,132
賞与引当金	41,217	18,599
その他	39,227	63,853
流动負債合計	142,681	153,093
固定負債		
退職給付引当金	119,800	129,638
固定負債合計	119,800	129,638
<b>負債合計</b>	<b>262,482</b>	<b>282,731</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	505,737	505,737
資本剰余金		
資本準備金	134,137	735
その他資本剰余金	52,306	39,217
資本剰余金合計	186,443	39,952
利益剰余金		
その他利益剰余金	△139,132	38,880
繰越利益剰余金	△139,132	38,880
利益剰余金合計	△32,099	△39,093
自己株式	520,949	545,477
株主資本合計	31,297	25,850
新株予約権	552,246	571,327
<b>純資産合計</b>	<b>814,728</b>	<b>854,059</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>814,728</b>	<b>854,059</b>

## (2) 四半期損益計算書

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	722,554	796,522
売上原価	401,084	409,003
売上総利益	321,470	387,518
販売費及び一般管理費	423,897	357,590
営業利益又は営業損失(△)	△102,427	29,927
営業外収益		
受取利息	31	37
為替差益	—	332
貸倒引当金戻入額	—	1,240
受取手数料	86	13
商標権使用料	90	90
未払配当金除斥益	29	39
物品売却益	—	190
その他	5	0
営業外収益合計	243	1,944
営業外費用		
雑損失	—	18
営業外費用合計	—	18
経常利益又は経常損失(△)	△102,183	31,854
特別利益		
新株予約権戻入益	10,088	7,951
特別利益合計	10,088	7,951
特別損失		
固定資産除却損	—	0
特別損失合計	—	0
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△92,094	39,805
法人税、住民税及び事業税	397	924
法人税等合計	397	924
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△92,492	38,880

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

(1) 資本準備金の額の減少

当社は、2025年6月20日開催の第25回定時株主総会の決議に基づき、資本準備金の額134,137千円を減少し、減少した額の全額をその他資本剰余金に振り替えるとともに、その他資本剰余金のうち139,132千円を取り崩し、繰越利益剰余金に振り替えることにより、欠損の填補に充当しております。この結果、当第3四半期会計期間末において、資本準備金は735千円となっております。

なお、剰余金の配当及び準備金の積み立てにより、その他資本剰余金が8,093千円減少、資本準備金が735千円増加しております。

(2) 自己株式の取得

当社は、2025年11月6日開催の取締役会決議に基づき、当第3四半期会計期間において自己株式9,900株の取得を行いました。この結果、当第3四半期会計期間において、自己株式が6,994千円増加し、自己株式は39,093千円となっております。

なお、当該決議に基づく自己株式の取得は、2025年11月17日をもって終了しております。

(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書を作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る減価償却費含む。）は次のとおりであります。

前第3四半期累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	一千円 2,853千円

(セグメント情報等の注記)

当社は、モバイル端末向けアプリケーション開発、データベース構築及びそれらを組み合わせたサービスの開発と提供を行う単一セグメントであるため、記載を省略しております。